

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

## 乳癌診療ガイドライン ①治療編 2018年版

日本乳癌学会 診療ガイドライン委員会 (委員長: 岩田広治 愛知県がんセンター中央病院乳腺科)

金原出版、2018年5月16日 第4版発行

### ■1 漢方薬

疾患:

ホットフラッシュ

引用など:

Nelson HD, Vesco KK, Haney E, et al. Nonhormonal therapies for menopausal hot flashes: systematic review and meta-analysis. *JAMA* 2006; 295: 2057-71.

有効性に関する記載ないしその要約:

『BQ12: 内分泌療法によるホットフラッシュ・関節痛の対策として薬物療法は勧められるか?』に対して、解説の項に下記の記載がある。

『その他の対処法として、大豆イソフラボンやハーブなどのサプリメントおよび漢方薬なども試みられることがあるが、これらが実際に有用かどうかはまだわかっていない。』

### ■2 漢方薬

疾患:

乳癌

引用など:

Hyodo I, Amano N, Eguchi K, et al. Nationwide survey on complementary and alternative medicine in cancer patients in Japan. *Journal of Clinical Oncology* 2005; 23: 2645-54.

有効性に関する記載ないしその要約:

『BQ13: 乳癌治療として補完・代替療法は勧められるか?』に対して、背景の項に下記の記載がある.

『CAM【補完・代替療法】の内容は人種間で違いがみられ、わが国の CAM 利用者の 9 割以上が漢方やアガリクスなどのキノコ関連、サメの軟骨やビタミンなどの製品を使用している。』